

当別町 平成23年度 財務書類4表の解説 (普通会計)

貸借対照表(バランスシート・BS)

貸借対照表は、当別町が保有するすべての資産がどのように構成されているかを示したもので、左側に「資産」を表示し、その資産がどのような負担により積み上げられたかを、右側に「負債(将来世代が負担する額)」と、資産から負債を引いた「純資産(現在までの世代が負担した額)」により表現しています。

資産の部(これまで積み上げてきた資産)		負債の部(将来世代が負担する金額)	
1 公共資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、総合体育館、地域会館など	87億6百万円	1 固定負債 (1) 町債 128億43百万円 (2) 退職手当引当金 18億6百万円 (3) その他 損失補償等引当金など なし
	(2) インフラ資産 道路、河川整備、公園など	350億49百万円	
2 投資等	(1) 投資及び出資金 10億63百万円 (2) 基金等 11億66百万円	2 流動負債 (1) 翌年度償還予定町債 14億90百万円 (2) その他 賞与引当金など 83百万円	
3 流動資産	(1) 資金 1億14百万円 (2) 未収金など 1億84百万円	負債合計 162億22百万円	
資産合計 462億82百万円		純資産の部(現在までの世代が負担した金額)	
		純資産合計 300億60百万円	
		負債及び純資産合計 462億82百万円	

純資産変動計算書(NW)

町の純資産(資産から負債を引いた残り)が年度中にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような要因で増減したのかを表示します。
NWの「期末残高」=BSの「純資産合計」となります。

期首純資産残高	307億1百万円
I. 財源変動	5億82百万円
1 財源の使途 (純経常行政コスト) (長期金融資産形成など)	△67億11百万円 △21億7百万円
2 財源調達 (町税、地方交付税、国・道補助金)	94億円
II. 資産形成充当財源の変動	7億65百万円
III. その他の純資産の変動	△19億88百万円
当期変動額	△6億41百万円
期末純資産残高	300億60百万円

行政コスト計算書(PL)

町の経常的な活動に必要なコストから使用料・手数料等の収入を引くことで、どれくらい行政活動にコストがかかるのかを示しています。(純経常行政コスト)
この費用は、純資産を減少させる要因の一つとしてNWの「財源の使途」に計上されます。

経常費用	70億31百万円
1 人にかかるコスト 人件費、退職手当引当金繰入など	15億78百万円
2 物にかかるコスト 物件費、減価償却費、維持補修費、経費など	18億25百万円
3 移転支的コスト 他会計への支出、社会保障給付、補助金等移転支出など	33億73百万円
4 その他のコスト 公債費(利払分)など	2億56百万円
経常収益	3億20百万円
うち使用料・手数料等	2億48百万円
純経常行政コスト (経常費用-経常収益)	67億11百万円

資金収支(キャッシュフロー)計算書(CF)

当別町における1年間の現金の流れを示したもので、簡単に言えば町のお財布の中身がどのように増減したかを表示したものです。
CFの「期末残高」=BSの「資金」となります。

期首資金残高	2億70百万円
1 経常的収支 税収、国・道補助金、人件費など	14億56百万円
2 資本収支(公共資産整備収支) 基金の積立・取崩、固定資産の購入・売却など	△6億18百万円
3 財務的収支 町債償還金、町債発行額など	△9億94百万円
当期資金収支	△1億56百万円
期末資金残高	1億14百万円

★ 財務書類からわかる各種指標

- ① 町民1人当たりの資産・負債・純資産
資産=254万円 負債=89万円 純資産=164万9千円
- ② 純資産比率(道路や公園など、現在までの世代が負担した部分) 【純資産/総資産】= 65.0%
「社会資本形成の世代間比率」とも言われ、他市町村の平均値は、現役世代負担割合が70~75%で、当別町は、将来世代の負担が少し高くなっています。
- ③ 受益者負担率 【経常収益/経常費用】= 4.6%
経常費用(総行政コスト)のうち、サービスの受益者(町民等)が直接負担するコストの割合です。
- ④ 町民1人あたりの純行政コスト及び人件費 36万8千円(うち人件費 8万7千円)
この指標は規模のメリットが働く(人口が多いと数字が下がる)ため、同規模市町村と比較する必要がありますが、当別町はほぼ平均的な数値となっています。
- ⑤ プライマリーバランス(基礎的財政収支) 【(歳入-町債借入)-(歳出-町債償還)+基金増減】= 8億38百万円
借金(町債)を除いた税収などの「収入(歳入)」と、過去の借金の返済額を除いた「支出(歳出)」の差で、これがゼロ(均衡)またはプラスということは、行政サービスを借金に頼らないで実施できており、現在の行政コストを将来の世代に先送りしていないことを示しています。

資金収支計算書(CF)から見る「平成23年度 当別町の財政運営」

町のお財布の中(現金)の動き	動きの内容	どういうこと?
1 経常収支 +14.6億円	人件費や物件費などの支出と、税収などの経常的収入の差引。	財布の中の現金(流動資産)が増えた。
2 資本収支 △6.2億円	基金の積立や固定資産の購入・売却に関するものの収支。23年度は、主に基金の積立(貯金)によりマイナス。	将来の支出に備え、貯金した。
3 投資・財務的収支 △9.9億円	地方債の「償還(返済)」>「新規借入」によりマイナス。	借金返済を優先し、将来世代の負担を軽減した。

財政運営計画等に沿った
堅調な財政運営

クロスアップ!

当別町 平成23年度 財務書類4表の解説 (全会計(単体))

貸借対照表(バランスシート・BS)

貸借対照表は、当別町が保有するすべての資産がどのように構成されているかを示したもので、左側に「資産」を表示し、その資産がどのような負担により積み上げられたかを、右側に「負債(将来世代が負担する額)」と、資産から負債を引いた「純資産(現在までの世代が負担した額)」により表現しています。

資産の部(これまで積み上げてきた資産)		負債の部(将来世代が負担する金額)	
1 公共資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、 総合体育館、地域会館など	87億8百万円	1 固定負債
	(2) インフラ資産 道路、河川整備、公園など	488億89百万円	(1) 町債 211億61百万円
2 投資等	(1) 投資及び出資金	10億63百万円	(2) 退職手当引当金 18億6百万円
	(2) 基金等	12億23百万円	(3) その他 損失補償等引当金など なし
3 流動資産	(1) 資金	5億29百万円	2 流動負債
	(2) 未収金など	4億74百万円	(1) 翌年度償還予定町債 20億11百万円
			(2) その他 賞与引当金など 1億34百万円
資産合計		608億87百万円	負債合計 251億12百万円
			純資産の部(現在までの世代が負担した金額)
			純資産合計 357億75百万円
			負債及び純資産合計 608億87百万円

純資産変動計算書(NW)

町の純資産(資産から負債を引いた残り)が年度中にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような要因で増減したのかを表示します。
NWの「期末残高」=BSの「純資産合計」となります。

期首純資産残高	368億2百万円
I. 財源変動	6億50百万円
1 財源の使途	
(純経常行政コスト)	△98億46百万円
(長期金融資産形成など)	△28億47百万円
2 財源調達	133億44百万円
(町税、地方交付税、国・道補助金)	
II. 資産形成充当財源の変動	7億6百万円
III. その他の純資産の変動	△23億83百万円
当期変動額	△10億27百万円
期末純資産残高	357億75百万円

行政コスト計算書(PL)

町の経常的な活動に必要なコストから使用料・手数料等の収入を引くことで、どれくらい行政活動にコストがかかるのかを示しています。(純経常行政コスト)
この費用は、純資産を減少させる要因の一つとしてNWの「財源の使途」に計上されます。

経常費用	108億32百万円
1 人にかかるコスト	16億71百万円
人件費、退職手当引当金繰入など	
2 物にかかるコスト	25億76百万円
物件費、減価償却費、 維持補修費、経費など	
3 移転支的コスト	61億31百万円
他会計への支出、社会保障給付、 補助金等移転支出など	
4 その他のコスト	4億54百万円
公債費(利払分)など	
経常収益	9億86百万円
うち使用料・手数料等	8億75百万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	98億46百万円

資金収支(キャッシュフロー)計算書(CF)

当別町における1年間の現金の流れを示したもので、簡単に言えば町のお財布の中身がどのように増減したかを表示したものです。
CFの「期末残高」=BSの「資金」となります。

期首資金残高	6億75百万円
1 経常的収支	19億48百万円
(税金、国・道補助金、人件費など)	
2 資本収支(公共資産整備収支)	△8億86百万円
(基金の積立・取崩、固定資産の購入・ 売却など)	
3 財務的収支	△12億8百万円
(町債償還金、町債発行額など)	
当期資金収支	△1億46百万円
期末資金残高	5億29百万円

★ 財務書類からわかる各種指標 (全会計)

- ① 町民1人当たりの資産・負債・純資産
資産=334万1千円 負債=137万8千円 純資産=196万3千円
- ② 純資産比率(道路や公園など、現在までの世代が負担した部分) 【純資産/総資産】= 58.8%
水道事業や下水道事業は将来の使用料収入で資金回収することを前提に、町債を発行してインフラを整備する仕組みとなっているため、普通会計に比べ、全会計(単体)では将来世代の負担が大きくなる(純資産比率が小さくなる)傾向があります。
- ③ 受益者負担率 【経常収益/経常費用】= 9.1%
全会計(単体)では、水道事業や下水道事業のように使用料徴収(=受益者負担)を基本とする事業を連結しているため、受益者負担率は高くなります。
- ④ 町民1人あたりの純行政コスト及び人件費 54万円[うち人件費 9万2千円]
- ⑤ プライマリーバランス(基礎的財政収支) 【(歳入-町債借入)-(歳出-町債償還)+基金増減】= 10億62百万円

資金収支計算書(CF)から見る「平成23年度 当別町の財政運営」(全会計)

町のお財布の中(現金)の動き	動きの内容	どういこと?
1 経常収支 +19.5億円	人件費や物件費などの支出と、税金などの経常的収入の差引。	財布の中の現金(流動資産)が増えた。
2 資本収支 △8.9億円	基金の積立や固定資産の購入・売却に関するものの収支。23年度は、主に基金の積立(貯金)によりマイナス。	将来の支出に備え、貯金した。
3 投資・財務的収支 △12.1億円	地方債の「償還(返済)」>「新規借入」によりマイナス。	借金返済を優先し、将来世代の負担を軽減した。

町全体の会計で見ても
堅調な財政運営

クロスアップ!